

令和元年度第1回宮古市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和元年 11 月 5 日 (火) 午後 6 時から
- 2 場 所 イーストピアみやこ 市民交流センター 会議室 1、2
- 3 協議事項
 - (1) 宮古市総合計画（基本構想）案について
 - (2) 学校・保護者・地域・行政が協力し合う教育の在り方について
 - (3) 宮古市教育振興基金 10 年の振り返りについて
- 4 出席者（8名）
 - 構成員

宮古市長	山本 正徳
宮古市教育委員会教育長	伊藤 晃二
宮古市教育委員会委員	荒谷 榮子
宮古市教育委員会委員	橋本 美紀
宮古市教育委員会委員	平井 亮吉
宮古市教育委員会委員	杉本 裕樹
 - 副市長

宮古市副市長	佐藤 廣昭
宮古市副市長	桐田 教男
- 5 事務局からの出席者

総務部長	伊藤 孝雄
企画部長	松下 寛
企画課長	多田 康
企画課 主幹	三上 巧
教育部長	伊藤 重行
教育委員会総務課長	若江 清隆
学校教育課長	佐々木寿洋
生涯学習課長	田中富士春
文化課長	藤田 浩司
教育委員会総務課総務係長	佐々木成人
学校教育課学校教育係長	柁家真由美
学校教育課学習指導係長	中島 和孝
生涯学習課副主幹	里見 正人
- 6 傍聴人 一般：12名

令和元年度第1回宮古市総合教育会議 会議録

□ 日時：令和元年11月5日（火）18:00～

□ 場所：イーストピアみやこ 市民交流センター 会議室1、2

次第	発言者	内容
1 開会	伊藤 教育部長	<p>ただいまから、令和元年度第1回宮古市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>私は教育委員会事務局教育部長の伊藤と申します。会議に入るまでの間、本日の進行を務めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議の開会にあたりまして、山本市長よりご挨拶を頂戴いたします。</p>
2 市長挨拶	山本市長	<p>みなさん、こんばんは。</p> <p>本日はお忙しい中、宮古市総合教育会議にご出席をいただきまして大変ありがとうございます。</p> <p>また、伊藤教育長、そして、荒谷教育委員、橋本教育委員、平井教育委員、杉本教育委員には、日頃から宮古市の教育に關しまして大変ご尽力をいただいております。この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。</p> <p>本日の協議事項でございますが、次の3つとさせていただきます。</p> <p>一つは、「宮古市総合計画（基本構想）案について」です。宮古市の総合計画、まだ基本構想までしかありませんが、この基本構想における教育という立場で、今日は意見交換をさせていただきたいと思っております。</p> <p>それから二つ目ですが、「学校・保護者・地域・行政が協力し合う教育の在り方について」です。</p> <p>そして三つ目は、「宮古市教育振興基金10年の振り返りについて」です。私が市長に就任してから、この教育振興を謳ってまいりました。その中の施策の一つである、宮古市教育振興基金が10年を経過いたしました。</p> <p>産業振興基金は、5年をめぐりましてローリングしておりますが、宮古市教育振興基金は10年ということで、長いスパンでもって考えていこうとさせていただいたところでもあります。この10年の振り返りと、今後この基金を使ってどのようなことができるのかということを考えていきたいと思っております。</p> <p>これらは全て、宮古の教育を考える上で非常に重要なことだと思っております。本日はこの現状、そして課題を一度評価して、次の計画・実行に移して参りたいと思っております。</p> <p>私が市長になりましたから、子どもたちには、「生きる力」、「確かな学力と健康な体」、そして「豊かな心」、この3つをぜひ持ってほしいと思っております。</p>

次 第	発 言 者	内 容
2 市長挨拶	山本市長	<p>そして、この社会の中でしっかり子どもたちが生きていけるようにしていきたいと思っております。</p> <p>その点を含めまして教育委員の皆様と様々な話し合いをしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
3 教育長挨拶	伊藤教育部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、教育委員会を代表しまして、伊藤教育長からご挨拶を頂戴いたします。</p>
	伊藤教育長	<p>おばんでございます。</p> <p>本日はお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>本日の午前中、第1回目の管内人事に関する教育長会議がございました。そのあと、午後は校長先生方との会議もございました。本日午前中の会議で分かったことは、来年の3月で岩手県内の小中学校が15校閉校いたします。小学校が8校、中学校が7校、小学校8校については、全て宮古地区です。</p> <p>また、藤原小学校の校長先生が本日おいでになっておりますが、藤原小学校は来年3月に閉校し、磯鶏小学校に4月から統合となります。</p> <p>隣の山田町ですと、小学校9校のうち、6校が閉校いたします。小学校は、豊間根小学校、船越小学校、山田小学校の3校になります。中学校は、豊間根中学校が山田中学校に統合となります。</p> <p>そして中学校として一番大きな大船渡地区ですが、日頃市中学校、越喜来中学校、吉浜中学校が大船渡第一中学校に統合いたします。</p> <p>岩泉町は、小川小学校と門小学校が統合いたします。</p> <p>北の方では、宿戸中学校が閉校いたしますし、盛岡では、繫中学校が大宮中学校に統合いたしますので、15校が閉校いたします。</p> <p>来年度以降も閉校学校が出てきますし、来年度は小学校の学習指導要領が本格実施、そして高校の再編が具体的に進みます。宮古商業高校と宮古工業高校の統合ということで、非常に大きな節目になります。</p> <p>先ほど市長がお話しをした、総合計画に伴っての教育に関する議題として、コミュニティスクール構想や教育振興基金の在り方も含めて、様々な話し合いが出来ればと思っております。限られた時間ですけれども、どうぞよろしく願いいたします。</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (1)「宮古市総合計画（基本構想）案について」	伊藤教育部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは早速、本日の協議に入りたいと思います。</p> <p>議事の進行につきましては、宮古市総合教育会議運営要領第4条の規定によりまして、山本市長に議長をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
	山本市長	<p>はい。それでは、進行をさせていただきたいと思いますので、皆様方のご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、4番目にあります協議事項に入らせていただきます。</p> <p>まず、(1)の「宮古市総合計画（基本構想）案について」を議題にしたいと思います。</p> <p>最初に、事務局から説明をお願いしたいと思います。</p>
	多田企画課長	<p>はい。企画部企画課長の多田でございます。本日はどうぞよろしく申し上げます。失礼ですが座って説明をさせていただきます。</p> <p>お手元に、「宮古市総合計画（基本構想）案について」という資料をお配りしております。まずは、総合計画について簡単にご説明いたします。</p> <p>総合計画につきましては、行政の活動についてまちづくりの方針を定め体系的に整備具体化した計画であると書いております。宮古市には様々な計画がございますけれども、その中で最上位に位置づけられている計画になります。宮古市の将来像や基本的な方向について定める、またこれからの指針について定めるものと位置づけられております。以前は法で定められておりましたが現在の根拠としては、宮古市自治基本条例にその根拠を持って策定しております。</p> <p>現在の計画につきましては、2011年に策定したものであり、10年目を迎える本年が最終年度ということでもあります。</p> <p>また、宮古市総合計画、それから東日本大震災後に定められた復興計画がございます。それから、平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が成立し、宮古市におきましても、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しており、これら3つの計画を1つにまとめて、これからの10年間定めていこうというものでございます。</p> <p>2番目に簡単な表を添付しております。宮古市総合計画の構成と計画期間でございます。</p> <p>まず、基本構想として10ヵ年計画と記載しております。現在、策定作業を進めているのが、こちらの基本構想となります。令和2年度から令和11年度までの10年間で策定したいと考えておりまして、基本的な指針ということを決めていきたいと思っております。</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (1)「宮古市総合計画（基本構想）案について」	多田企画課長	<p>こちらにつきましては、議会の議決が必要ですので、3月議会でもって議決を目指して参りたいと考えております。</p> <p>その下に位置づけられているのが基本計画でございます。こちらは前期、後期と分かれておまして、5ヵ年計画を2回立てるという構成でございます。</p> <p>それから実施計画がございまして、これも5ヵ年計画ですが、毎年ローリングを行い、向こう3ヵ年計画をローリングして定めていく計画ということで3部構成になっております。</p> <p>本日は基本構想案について概要を説明したいと思います。次のページをご覧ください。9月24日時点となっておりますが、9月末時点でまとめた基本構想案でございます。現在、策定作業が続いておりますので、この時点の案ということでご理解をいただければと思います。</p> <p>まず第1章でございます。基本構想の目的と書いておりますが、宮古市で定めております自治基本条例の前文から大まかな部分を抜粋しております。まちの成り立ちなどが書かれておりますが、中ほど右の方にシビックプライドと書いております。この部分が今回加筆した部分となります。「そして今市民一人一人の人権が守られ、市民がまちに誇りを持ち、参画と協働を基礎にしたまちづくりを推進しています。」という文言を付け加えさせていただいております。</p> <p>続いて、第2章の基本構想の目標年次です。先ほど申し上げましたとおり、この基本構想の目標年次は10年間ですので、令和11年度を目標にして定めていくものとなります。</p> <p>次に、第3章です。まちづくりの基本方針として幾つか挙げております。</p> <p>第1として、基本的な考え方ということで、現在の社会情勢や基本的な方針について書いております。人口減少が進んでいること、それから少子高齢化が進んでいることを明記しております。また、大きな出来事として、平成23年3月11日に発生した東日本大震災からの復興の在り方、その経緯について書いております。ハード事業は概ね終了したところですが、これからソフト事業を進めていくこととしております。</p> <p>台風関連につきましては、これから書き方を考えていこうという状況です。</p> <p>次に、2ページになります。前半には、地方創生について書いております。4行目に、まち・ひと・しごと創生法と書かれております。平成26年末に法律が整備され、地方創生に全国の自治体に取り組むという内容であり、宮古市でも総合戦略を策定しております。人口の減少を緩やかにすることや、活力あるまちをつく</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (1)「宮古市総合計画（基本構想）案について」	多田企画課長	<p>ること、それから仕事を地方に生み出すということで取り組んでいるところでございます。</p> <p>また、真ん中右の辺りに、SDGs と書いております。これは、2015年の国連サミットで採択をされたもので、持続可能な開発目標と訳されますが、これから世界で取り組むべき 17 の目標ということで定められた考え方がございますので、今回盛り込んでおります。</p> <p>左側見ていただくと、市はもとより、地域社会を構成するあらゆる主体がそれぞれ主体性を持ってともに支え合いながらみんなで取り組んでいくことが大切です。と書いております。また、社会的に弱い立場にある方々を包み支え合う取り組みを進めることが重要です。という考え方について、今回加筆したものになります。</p> <p>それから、下の方に太字にしている部分がございます、5項目を挙げております。現在の総合計画にも書かれている考え方があります。「豊かな自然や伝統文化など地域の多様な資源を守り活用する創造のまちづくり」、「市民と行政とのパートナーシップによる参画と協働のまちづくり」、「市民が助け合いながら暮らすことができる連携と共生のまちづくり」、「自己決定自己責任の原則に基づく自立のまちづくり」、そして最後の行が今回加筆した部分でございます、先ほどの SDGs の考え方から、「全ての市民を社会の構成員として包み支える共創のまちづくり」というものです。</p> <p>第2に移りますと、都市の将来像を挙げております。「森・川・海」と人が調和し共生する安らぎのまち」でございます。これは、市民憲章にも定められている、森・川・海に「」（カギカッコ）をつけて一体的に捉え、共生の部分を市民憲章の文言に追加しまして、調和し共生する安らぎのまちを都市の将来像として挙げて取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>下部の青字の部分には、第3、まちづくりの基本的な方向といたしまして3点挙げております。次のページに参ります。</p> <p>一つ目は、自然と共に生きるまちづくりということで、先ほど都市の将来像でも掲げました、自然との調和・共生を図る部分について書いております。世界に誇れる自然環境を次世代へ引き継いでいくことや、これらを生かしたまちづくりを進めていくことを書いております。</p> <p>次の太字が2点目です。健やかで心豊かな人を育むまちづくりということで、主にひとづくりや健康福祉について語った部分です。保健医療福祉などの取り組みを進め、未来を担う子どもたちを安心して産み育てることができるまちづくりを進めていくことを書いております。</p> <p>次に3点目、多様な産業が結びつき力強く活動するまちづくり</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (1)「宮古市総合計画（基本構想）案について」	多田企画課長	<p>ということで、主に産業振興でございます。大きく状況は変わっておりますので、交通ネットワークを生かした物流、それから交流人口の拡大を図っていくと書くことと書いてございます。</p> <p>次に、5ページに参ります。主に一次産業の分野、森林を活用した林業や養殖を進める水産業など、これら多様な産業が結びつくことで、宮古市で進めております再生可能エネルギー事業も取り込まれていくということを書いております。</p> <p>また、第4章として分野別施策の施策方向性について、主に基本施策と呼ばれる部分でして、7つの分野に分かれております。</p> <p>一つ目は、三陸沿岸地域の拠点都市としての基盤形成です。ここでは、交通ネットワークを生かした物流機能の強化や、インバウンドなど交流人口の拡大を図ること、公共交通の利用促進や港湾の機能強化ということを書いております。</p> <p>資料の6ページに進みます。活力に満ちた産業振興都市づくりでございます。担い手の育成や人材確保、特にUIターンの促進などを含め、産業都市づくりを進めていくことと書いております。</p> <p>続いて3番目です。安全で快適な生活環境づくりということで、先日の台風もございましたが、消防防災、津波や高潮風水害など災害の経過を踏まえ、防災施設や情報伝達体制、強靱なインフラの整備などを図り、災害に強いまちづくりを進めるという方向です。併せて、環境保全も図っていくと書いております。</p> <p>続きまして、7ページです。4つ目として、健康でふれあいのある地域づくりということで、保健・医療・福祉の分野と、健やかで生活が長く続けられるように健康寿命の延伸に取り組むという部分を書いております。</p> <p>5番目として、交流と連携による地域づくりということで、市民の協働と参画について触れた部分です。また、シビックプライドとして、皆さんがまちに誇りと愛着を持って市民活動に参加し、まちを作っていくということ、様々な立場の方がいらっしゃいますので、多様性を持った方々を取り込みながら、みんなでまちづくりを進めていくということと書いております。</p> <p>6番目としては、郷土を誇り次代につなぐひとづくりがございます。主に皆様に関係する教育分野を語った部分でございます。現在の計画ですと、この項目は個性を生かし未来を拓くひとづくりとさせていただいております。今回、項目名を変更しております。生涯学習環境の問題、学校教育の問題、生涯スポーツに取り組める環境づくり、それから、地域の歴史や文化への理解を深め、愛着や誇りの醸成を図るという項目に触れたところです。</p> <p>続いて7番目、新しい時代にふさわしい行財政運営の推進です。2度の合併を経て現在の宮古市になっておりますが、それらの効</p>

次 第	発 言 者	内 容
<p>4 協議事項 (1)「宮古市総合計画（基本構想）案について」</p>	<p>多田企画課長</p>	<p>果を最大限に発揮しながら、財政改革を進めるという部分です。</p> <p>その概要図として、町の将来像、それから3つの基本的な方向、7つの基本施策を模式図にしております。</p> <p>それから9ページ、第5章ということで、土地利用について書いております。まず、計画的、総合的に土地利用対策に取り組むということで、津波以降の産業への活用です。また、買収した用地の活用などについて触れております。</p> <p>次に、中ほどから第6章の将来指標でございます。将来指標はこれまで、どちらかといえば抽象的な表現で基本構想を語ってきましたが、今回は数値をもってその進展を推進するというので、今回3点挙げております。</p> <p>1点目は人口です。本市の人口は国勢調査の数値を使っており、5万6676人です。最新の住民基本台帳では5万1000人ほどになっておりますので、少し開きがありますが、国で推計をした数値よりも緩やかな勾配になるように人口問題に取り組んでいくということです。</p> <p>次に10ページです。様々な数字や表がございます。グラフをご覧ください。青い線が、国立社会保障人口問題研究所で推計をした数値です。年が経つにつれて、どんどん人口減少社会が進行していくということですが、我々が目指す数値は赤い線になります。令和2年度で今、推計値と赤線がやや交差している部分がありますが、この減少の傾きを少しでも緩やかになるように各種施策を持って取り組んでいくということが目標指標の1つです。</p> <p>次のページに参ります。11ページ、第2のバロメーターですが、所得でございます。現在、所得の数値につきましては、2年遅れほどで公表されますので、最新値が平成28年度の数値となっております。以前の計画ですと、岩手県平均を目指したいと掲げておりましたが、平成27年度以降、宮古市の分配所得は岩手県平均を上回っている状況です。グラフをご覧くださいと、宮古市民1人あたりの分配所得が青線で表示されています。一方、岩手県平均は赤線で表示されており、平成26年度以降、宮古市の所得が岩手県平均を上回っている状況です。</p> <p>若干印刷が薄くなっており、大変恐縮ですが、薄い水色の線が上でございます。こちらは国民所得水準です。なるべく上を目指して取り組んでいくというのが2つ目の指標です。</p> <p>ページをめくっていただいて、指標の3つ目です。市への愛着度、定住意向について書いております。今までは人口所得が指標に挙げられましたが、今回項目を追加しております。市民意識調査を5年に1回実施しておりますが、この項目に近年減少傾向がみられまして、先ほどご説明いたしました、シビックプライドに</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (1)「宮古市総合計画（基本構想）案について」	多田企画課長	<p>関わる取り組みを進めていこうということで、これらの数値は現在、68%、73.7%となっていますが、80%まで押し上げようということで取り組んで参りたいと考えております。</p> <p>このような内容を基本構想として、現在まとめているところであります。皆様方からもご意見を頂戴したいと思っておりますので、教育委員会を通じて、あるいは直接でも構いませんので、お気づきの点などをお教えいただければと思います。以上です。</p>
	山本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは、教育委員の皆さんから発言をしていただきたいと思います。</p> <p>それでは荒谷委員さんから、ご意見等お願いします。</p>
	荒谷委員	<p>宮古市総合計画基本構想案について、感想になるかと思いますが、お話しいたします。</p> <p>まず1点目ですが、過去10年を振り返ったとき、東日本大震災がありました。それから、復興途上ではありますが、概ね力強く前進してきて、これは宮古市全体に高い評価をつけて良いと思います。</p> <p>ただ、子どもたちの心のケアなどについてはまだまだこれからも続くと思います。</p> <p>次に2点目です。新しい時代のスタートとなりましたが、教育においては、新しいことだけを見るのではなくて不易と流行という言葉にもあるように、過去の良いところは活かしてほしいです。また、新しいところにも目を向けて開拓していく部分も必要だと思いました。</p> <p>それから3点目ですが、基本構想案を読んでいて1番ショックだったことは、人口減少です。もちろん子どもの数は減りますし、教育長さんが挨拶の中で話されたように閉校する学校も増えております。そのような状況の中で、教育の質を低めてはダメだと思います。たくましく生きる力を子どもたちに培っていただきたいと思います。</p> <p>4点目になりますけれども、実は先日、宮古に移住したいという友達が奈良県からやってまいりました。50歳の女性です。最初は、東日本大震災からの復興について学びたいということで宮古市にやってきたのですが、市内を色々見ているうちに「ここで生活したい」と突然言い出したのです。「そんなに焦ることはないよ」とアドバイスをして帰って行きました。それから2ヶ月後に再びやってきて、「宮古市は本当に魅力的な町だ」と言っていました。「どこが魅力的なの」と聞くと、「まず景色や空気がきれいで、町を歩いていると人がとても温かい感</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (1)「宮古市総合計画（基本構想）案について」	荒谷委員	<p>じがする。道を聞いても親切に教えてくれる」と、宮古市の良いところを見つけていました。実際に移住するかは分かりませんが、そのような知人もおります。</p> <p>子どもたちには、やはり小さい頃から地域の良さ、多分私たちも気付かない宮古市の良さがあると思いますが、教育の力で子どもたちに良いところを学ばせたいと感じました。以上です</p>
	山本市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、平井委員さんお願いいたします。</p>
	平井委員	<p>私は、健康でふれあいのある地域づくりについてです。健康延伸を主にお話しします。郷土を誇り次代につなぐひとづくりの部分で生涯スポーツとありますが、なかなか生涯スポーツに関わることは若い時に関わらないと出来ないというか始めにくいものがあります。</p> <p>震災で使えなくなりましたが、シートピアなあどの復活もあるのではないかと思います。私も行こうと思っていた矢先の出来事でした。全国的にも珍しい建物ですし、お風呂などもお年寄りの方たちへは十分な効果があると思います。私の希望ですが、このことも視野に入れていただければ幸いです。</p> <p>今回、総合計画に関しては、私の子どもたちにも何か意見はないかと聞きました。小学校6年生の娘に聞くと、「田舎は田舎のまままで良い。わざわざ都会っぽくなる必要もない。」と言われました。ざっくりしていて分からない部分がありましたが、私も同意見だと感じました。以上です。</p>
	山本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは、橋本委員さんご意見をどうぞ。</p>
	橋本委員	<p>教育委員の橋本です。よろしくお願いいたします。</p> <p>基本構想のうち、共生、地域まちづくり将来像を始めとして、非の打ち所がない、指摘するような箇所もないくらい素晴らしいものだと思って読ませていただきました。皆さんが一生懸命考えて下さって、私たちも協力したいと思っています。</p> <p>今、平井委員さんがおっしゃって、先ほど荒谷委員さんのおっしゃっていて、少し思ったところなのですが、私も正直なところ内容が重かったです。一生懸命進めていきながら前を向いていこうという気持ちはあるのですが、そのように感じました。また、先ほど平井委員さんの娘さんの発言にもあったように、それに近い気持ちがあります。中央に合わせるのではなく、宮古らしさというところで、進めていければと思ったことも事実です。</p> <p>私が言いたいことは、日頃思っていることで、項目にあてはめると交流と連携による地域づくりに該当するところだと思います。見る学習についてですが、私は以前文書にもしたためたので</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (1)「宮古市総合計画（基本構想）案について」	橋本委員	<p>すが、昨年広島を訪れました。百聞は一見に如かずという言葉のとおり、メディアや大きなスクリーン等でも伝わらないものを見てきました。ピースメーカーとして世界の平和を願う広島の子どもたち、そして、今回の震災の経験を語り継いでいる宮古の子どもたち、いつでもピースメーカーとして大きな役割を担っているのだと思っています。そのためにも、高校生にはぜひ修学旅行で訪れてほしいです。小中学生については可能であれば訪れてほしいですが、学習の機会を増やしてほしいです。何らかの形で広島にアプローチすれば、世界平和という部分で交流関係が築かれれば良いと思います。それによって宮古市がまた別の角度から見えてくるかもしれないと思いました。</p> <p>先ほど、荒谷委員さんから昔の良いところを活用し、目を向けることも必要だというお話がありました。それに近いところで、見る学習に関わるのですが、市内で見学してほしい場所がたくさんあります。今日は3カ所を挙げたいと思います。一カ所目は、ゴミ焼却場、特にも不燃ゴミの集積所です。とてもシュールな光景というか、見たときにショックを受けた記憶があります。小学生が学習の一環として見学に行くというようなことがすでに行われていれば、私の勉強不足ですが、あの場所を見学した方が良いと思いました。ものに対する考え方が変わると思います。次に、月山からの宮古市の風景です。小学校6年生の遠足で私も昔登りました。子どもながらに、山登りの厳しさと頂上で待つ様々な感情を含めた達成感と素晴らしい景色を見ました。あの景色は今でも忘れられません。3番目に、新しくなった市役所です。閉鎖感のない大きな造りなので、市民のために働く大人の姿を子どもたちに見てほしいです。実は、最初に教育委員会の定例会に出席するために来た時に迷いました。自分がどこの階にいるか分かりませんでした。ただ、その時にガラス越しの会議室で職員の方が会議をされていて、その方たちの姿がかっこよかったです。ドラマの1場面ではないですが、皆さんがテーブルに向かって真剣な表情をされている姿は素晴らしいと思いました。この姿を子どもたちに見せたら、「市役所の人たちは、こんなに格好いい姿で市民のために一生懸命仕事しているのか」ということが伝わると思います。こういったことに取り組むことも、教科書にはない、授業ではないものだと思います。以上です。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。 それでは、杉本委員さんどうぞ。</p>
	杉本委員	<p>はい。杉本です。 私からは産業振興の部分になりますが、多様な産業が結びつき力強く活動するまちづくりということで、第一次産業である林業、</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (1)「宮古市総合計画（基本構想）案について」	杉本委員	<p>農業、水産業などを発展させるために、様々な事業が進められていくかと思えます。ぜひともこれまでの実績等を踏まえて、これからの宮古市の未来を担う子どもたちが、ぜひとも興味を持ってくれるような産業づくりや取り組みを進めていただければと思います。</p> <p>また、市への愛着という部分になりますが、私も同じように数値が下がっているなど思っておりました。今現在、具体的に何をすれば良いのか、私も分からないところではありますが、ぜひとも子どもたちに愛着を抱いていただける、そのようなまちづくりが出来れば良いなという思いです。</p> <p>また、スポーツの部分に関しても、生徒数が非常に減ってきている中で、学校の部活動等も種目自体が減ってきていると。この部分についても、色々なスポーツがあるということ発信していきながら、必ず宮古市も宝や星となる選手がたくさんいるかと思えますので、そういった子どもたちに様々なスポーツの種類を知っていただけるような事業も必要になってくるのではないかと思います。見させていただけました。</p> <p>これから先も非常に楽しみでありながら、期待をしているところでございます。以上です。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、伊藤教育長お願いします。</p>
	伊藤教育長	<p>それでは、私も色々とお話を通して提言しようかと思っておりましたが、様々なことを教育委員さんからお話いただきました。</p> <p>私からは1つ、多田企画課長にお願いがあります。実は今、4年に一回行われる、小学校3年生と4年生が使う社会科の副読本「わたしたちの宮古」を作成しております。これは、小学生向けでたくさんの地図や絵、数字があって楽しく学べる副読本です。これはどの市町村にもあります。身近なまちを探検しようということで、先ほどのお話にもあったように、イーストピアみやこに来て各課の仕事を拝見するという、大変良い内容で進行しております。来年度末までに、「わたしたちの宮古」最新版が作成になります。先ほど多田企画課長からお話があった基本構想の抜粋といえますか、リーフレットやダイジェスト版の小学校3年生と4年生でも分かるようなものと、できれば中学校でも使えるバージョンを揃えていただければと思います。全てを網羅しなくても良いと思います。</p> <p>平井委員さんが先ほどお話ししましたが、小学校6年生の子どもたちもこれを見て、宮古市の向かう方向性が分かる内容であれば良いと思います。また、特に中学生と話をするときに気に</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (1)「宮古市総合計画（基本構想）案について」	伊藤教育長	<p>なるのが、人口と所得のことです。今、具体的に表が出ておりますので、これをうまく噛み砕いて子どもたちが進路を決める、あるいは将来のまちづくりを支えるためには見直しが必要だということも、この構想に入れていただいて小学校と中学校版を、出来れば来年度末までに教育委員会の指導主事を中心に先生方にもお願いをして、連携しながら教育に関わる方たちが、子どもたちの目線でも分かりやすい、総合計画の小学校版と中学校版があればとても良いと思いますので、ご検討いただきたいと思います。以上です。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>委員さん方から、様々な感想等があったかと思えます。教育委員会がしっかりと方向性をリードして、計画を立てるのが教育委員会であります。</p> <p>この事業の中でしっかりと議論して、方向性を見つけて、子どもたちの教育を進めてほしいと常々思っております。</p> <p>総合計画でございますが、教育長がおっしゃったように、やはり我々が少し欠けていたことは、小中学生でも分かるようなものがあつた方が良かったということです。何かダイジェスト版でも良いので、やはりあつた方が良いと思えます。まだ遅くないので、少し作業は大変かもしれませんが、教育委員会にも力を借りながら一緒にまとめてほしいと思えます。</p> <p>やはり、今の10歳から12歳の子どもたちが10年後にはそのまま大人になりますから、私たちがしっかりと考えた構想どおりになっているのかということ、また考えるチャンスになるのではないかと思います。</p> <p>また、目標の立て方、それから多田企画課長からからもお話がありましたが、データをしっかりと取って、どの辺りに目標を持って進めていくのかは非常に大事なことです。それから、現代の子どもたちは結構外の世界を見ないのかなど。今は、インターネットで色々なことが分かる時代です。その中にはないものが、ふるさつに関することだと思います。ぜひ、我々のような宮古に住んでいる大人が、子どもたちに宮古市の様々なものを教えていく必要があると思えます。</p> <p>ですから、教育のことだけではなく、大きな社会の中で子どもたちが学べるようにしていくことが出来る、この考え方が基本構想の中にも表れてくれば良いと思えます。そのためには、現在の宮古市や過去の歴史も大事になってきます。</p> <p>また、我々は様々なイベントを行っていくわけですが、例えば宮古港海戦150周年ですと、宮古港海戦はそもそもどういうものだったのか、子どもたちも体感していくようなことを組み入れて</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (1)「宮古市総合計画（基本構想）案について」	山本市長	<p>いく必要があります。宮古港が完成してから400年経つというように、歴史的に学びながら郷土を理解して、そして大きく育ててほしいです。</p> <p>そういう意味で、今回は教育委員会の助言もいただきながら「郷土を誇り次代につなぐひとづくり」という文言にさせていただきました。何もかも全てではなくても、やはり、しっかりと我々のふるさとというものを認識して勉強しながら子どもたちに育ててほしいです。また、我々大人になってからも、色々な活動やスポーツ、文化を通じながら宮古市を捉えて、楽しく暮らせる宮古をみんなで実感していくという形が良いのではないかと思います。</p> <p>隣の芝生はよく見えるので、新聞やテレビ、インターネット上での情報は分かりますが、自分自身のふるさとにも良いこと、楽しいことがいっぱいあります。ぜひ、子どもたちも大人も、それから高齢者の方々も差別することなく、みんなが楽しめるものを作っていくことも1つの教育だと思っていますので、これからも色々な意見を出し合って、この町を楽しく豊かに暮らせるようなまちにしていきたいと思っています。</p> <p>やはり、子どもの数が少なくなってきておまして、今は1日に1人は産まれておりません。1年365日で約300人くらいです。1.5日に1人くらいになっております。やはり、次代につなげるためには、宮古市で子どもが生まれ、育てていくことがすごく大事であり、一旦外に出ていった子どもたちが、また戻ってきたいと思えるようなまちづくりをしたいと思っています。そのためには、しっかりと教育が必要だと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。</p> <p>何か、意見等をお持ちの方はいらっしゃいますか。</p> <p>はい。荒谷委員さん。</p>
	荒谷委員	<p>私事ですが、よろしいでしょうか。</p> <p>8年7ヶ月前の東日本大震災で、私は田老の家を失いました。それから姉の家に約2年、そして市内に新しい家を建てて6年過ごしました。この8年間ずっと考えていたことは、生まれたふるさとの田老に帰ることだけでした。しかし、軽々しく言えませんでした。でも気持ちだけはすごく強く持っていました。そして、今年の10月3日にやっとその思いが叶って、田老の高台に土地を買って小さな家を建てました。ものすごく快適です。ふるさと田老の良さを嫌というほど思い知らされたので、私は本当にいつどうなっても良いくらいです。</p> <p>私は、子どもたちにこのような自分の体験談を話しながら、「ふるさとはやっぱり良いよ」ということも教えていけたらと思っています。</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (2)「学校・保護者・地域・行政が協力し合う教育の在り方について」	山本市長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>その他にございますか。</p> <p>荒谷委員もおっしゃったように、やはり自分のふるさとが良いなと思います。全員がそう思えるかと言われれば無理かもしれませんが、そういう気持ちは非常に大事にしていかなければと思います。この構想の中で、やはり教育長も言ったように、我々は大人が見るような計画ばかり作成しているので、子どもたちが見ても分かるような構想計画書をこれからやはり配慮していかなければならないと思います。</p> <p>それでは、次の協議事項に移らせていただきたいと思います。協議事項(2)「学校・保護者・地域・行政が協力し合う教育の在り方について」話し合いをしていきたいと思います。</p> <p>それでは事務局から説明をお願いいたします。</p>
	田中生涯学習課長	<p>はい。生涯学習課長の田中でございます。着座にてご説明させていただきます。</p> <p>協議事項(2)「学校・保護者・地域・行政が協力し合う教育の在り方について」でございます。これまでの体制や取り組みについてまとめてございます。まず1つ目は、学校評議員制度でございます。これは、地域の方々や保護者の方々を校長推薦により、教育委員会で委嘱しまして学校運営について校長の求めに応じて、意見を述べることができるという仕組みでございます。</p> <p>また、教育振興運動の取り組みがでございます。地域の課題解決のために、標題にある4者に子どもたちを加えた5者により、地域全体で子どもたちを育てていく岩手県独自の運動で、50年以上取り組まれております。宮古市においては、田老、新里、川井に実践区を設定しまして取り組んでおりますし、宮古地区では全市を対象とした研究大会を開催するなどして取り組んでおります。</p> <p>これまでの取り組みであります。現在、地域学校協働事業ということで、地域が学校に入って色々な支援活動を行っております。本年度は市内の小・中学校6校で行われておりまして、各校に地域学校協働本部を設置しまして各本部に地域コーディネーターの方々を配置しております。その方々が学校支援活動を企画して、地域ボランティアの協力を得ながら実施しております。なお、地域コーディネーターの方は、以前PTAを経験された方々などに依頼しております。実施校は、枠で囲んである中の6校です。小学校は、宮古小学校、山口小学校、津軽石小学校、新里小学校、中学校は、第一中学校と宮古西中学校です。</p> <p>活動内容は、読み聞かせや登下校の安全指導、郷土芸能の伝承、学校林整備、家庭科・外国語等の授業補助、郷土学習や部活動指導を行っております。</p>

次 第	発 言 者	内 容
<p>4 協議事項 (2)「学校・保護者・地域・行政が協力し合う教育の在り方について」</p>	<p>田中生涯学習課長</p>	<p>また、現在コミュニティスクールという考え方が国から出ております。これは、地域学校協働活動の充実と学校運営協議会の設置を謳っております。地域学校協働活動は、これまでも行ってきた学校支援活動がこれに当たります。また、学校運営協議会は、これまでの学校評議員制度から学校運営協議会という仕組みを作るものです。</p> <p>この中身は、校長が作成する学校運営の基本方針を承認する役割がございますし、学校運営について教育委員会または校長に意見を述べることもできます。それから、教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項や範囲に沿って意見を述べる事が出来ます。</p> <p>コミュニティスクールは、平成29年3月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、学校運営協議会の設置が努力義務化されております。この努力義務化が、令和2年度からは義務化される可能性があるということです。</p> <p>また、コミュニティスクールについて、県内市町村では、八幡平市、金ヶ崎町、大槌町、岩泉町、普代村で導入済みです。</p> <p>ページをめくっていただいて、裏面に義務化の話がございます。ですが、教育委員会としましては、地域と学校の関わりをさらに深めていこうということで、今後、中学校区単位でコミュニティスクール設置について取り組んでいこうと考えております。</p> <p>小中学校区の地域学校協働活動については、中学校と連携するやり方でコミュニティスクールに取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>学校運営協議会についても、中学校区単位で設置をし、必要に応じて部会を設けるという形で考えております。</p> <p>地域学校協働活動については、令和4年度に全ての中学校で実施ということで計画的に拡大していきます。併せて、コーディネーターの確保のための人材の養成、掘り起しに取り組めます。</p> <p>学校運営協議会につきましては、今年度中に教育委員会規則を整備しまして、地域学校協働活動と同様に、全中学校で実施を目指して計画的に取り組んで参ります。また、同協議会は現在の学校評議員の方をベースに組織して参ります。こちらが教育委員会としての考え方です。</p> <p>3ページ目には、これまでの既存の仕組みを掲載しております。これからの仕組みについては、学校に目標を設定して、学校で取り組んでいく仕組みである、まなびフェストというものになります。学校とも連携しながら、地域学校協働本部を進めていくという概念図でございます。</p> <p>下部には、学校評議員制度と学校運営協議会の違いを掲載して</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (2)「学校・保護者・地域・行政が協力し合う教育の在り方について」	田中生涯学習課長	<p>おります。それぞれ、根拠になる規則や法律が違います。学校評議員制度では、求めに応じた意見を述べますが、学校運営協議会は意見を主体的に述べるという違いもあります。</p> <p>4 ページ目に、これまでの地域学校協働本部の中身をまとめております。取り組みの概要や経緯ということで、平成 20 年度に山口小学校を含めた 3 小学校、1 中学校で始まりまして、平成 30 年度からは名称を地域学校協働本部とし、先ほど申し上げた 6 校で行っております。内容に関する写真もございますが、先ほど申し上げたように家庭科でのミシンや学校の美化活動などを、地域と学校が一緒になって取り組んでおります。</p> <p>この事業の成果ですが、例えば、山口小学校ではボランティアを活用した授業実践が増加し、地域から学校への働きかけや取り組みが増加しました。逆に、津軽石小学校では、子どもたちから地域ボランティアに声をかける場面が増えたそうです。また、第一中学校では、地域活動への参加が増えたというように、学校から地域へのフィードバックのようなものもある状況が成果として出ております。</p> <p>今後の方向性でございますが、さらに地域に対する周知や連携を進めていくことで、学校から地域へ貢献するというものも大事になってくると記載しております。以上で説明を終わります。</p>
	山本市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、平井委員さんからお願いいたします。</p>
	平井委員	<p>私も PTA 会長を 6 年やっております、様々な経験をしましたけれども、活動していると、一切振り向かない親御さんもいます。どうしても、子どもは学校に預けているので、私たちは関与しませんという親御さんがいらっしゃるので、その方々をどうにか振り向かせようと色々な手段を使ったのですが、やはり難しいものがありました。コーディネーターさんたちが入ることによって、大人が一生懸命に取り組んでいることを子どもたちが間近に感じます。先生となると、やはり何か一枚壁があるので、コーディネーターさんだと、自分の親でもないが地域の大人なので、関わりやすいのかなと思います。</p> <p>ただ、コーディネーターさんの明確な位置づけが今はっきりしないので、活動されている方にお詫びしている面もあります。今後、先生と同じように取り扱っていただくことも必要なかと思っております。</p> <p>やはり活動する上では、予算が必要になってくるので、校長先生方の裁量で使える予算も必要かと思っております。以上です。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、杉本委員さんお願いいたします。</p>

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (2)「学校・保護者・地域・行政が協力し合う教育の在り方について」	杉本委員	<p>はい。地域コーディネーターということで、私も数年、山口小学校と第一中学校でPTAとして関わらせていただきました。その時には、もう既に、山口小学校では地域コーディネーターさんを取り入れて授業を行っていました。第一中学校に関しても、私の子どもが卒業する辺りに、地域コーディネーターを取り入れるという状況を見させていただきました。私の勉強不足で、逆に他の小中学校でコーディネーターさんがいないところもあるのだと分かせていただきました。</p> <p>私も地域コーディネーターさんを直接見てきましたが、非常に良い事業だと思っておりました。地域の方々と学校とをつなぐために、非常に頑張っている姿を見てきました。</p> <p>ただ、その頑張り方が果たして本当に学校の先生方にとって、負担軽減になっているのかということも若干気になったときもありました。これから、地域コーディネーターさんやコミュニティスクールを設置していく中で、人選という部分は非常に難しくなってくるのかと思いますが、もう既に経験している方もいらっしゃるので、1人の地域コーディネーターさんが近くの学校をコーディネートするという形も良いのではないかと考えておりました。</p> <p>非常に良い事業ですので、ぜひとも教職員の方々の負担軽減になりながら、家庭との連携をうまく図れる、一つの事業になっていけば良いと思っておりますし、何よりも1番子どもたちが学校に行きたくなるような環境づくりに励んでいただければと思います。以上です。</p>
	山本市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、橋本委員さんお願いします。</p>
	橋本委員	<p>それでは、コミュニティスクールについてですが、地域学校協働活動の表記のとおり、コーディネーターと地域ボランティアの方々との連携が比較的スムーズに行われて、このように積極的な活動状況であると制度を見ても分かると思います。</p> <p>しかし、平成29年度のアンケートでは、肯定的な回答が低かったことは残念に思いました。やはり、その年ごとの保護者の方々を取り巻く状況も様々ですし、置かれた状況の違いもあると思うので、それに左右されることがあったと思います。しかし、何よりも成果としては、充実した活動が出来ていれば十分ではないでしょうか。</p> <p>次に2番目の学校運営協議会についてですが、個人的に協議会の設置はどうなのかなと思います。メリットとして挙げられるものとしては、学校・家庭・地域が教育に対して同じ方向を向いて意識が高まっていき、学校への理解が深まるのかと思う反面、地</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (2)「学校・保護者・地域・行政が協力し合う教育の在り方について」	橋本委員	<p>域格差があるので、デメリットが多く浮かんできます。人選にもよるかと思うのですが、意見を述べるという面で、学校への要求が過剰にならないのかと思います。会議を設置することで、人的な負担が増えてくるのではないかと危惧しております。学校側の意見と、協議会の方々とで意見が合わなくなった場合に、予定していた行事が遅れてしまったり、実行できなかつたりということが出てくるのではないかと思います。</p> <p>また、教職員の任用に関して、保護者の主観的な意見に偏ってしまわないのかと思います。幸いなことに、何も問題が起きなければ進めていくことに支障はないのですが、形骸化してしまわなければ良いなと思います。</p> <p>今年度中に規則を整備するということですが、あくまでも学校現場や先生を中心として、そして既に導入されている市町村でのメリット・デメリットも考慮しながら、整備を進めてほしいと思います。以上です。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>続いて、荒谷委員をお願いします。</p>
	荒谷委員	<p>はい。コミュニティスクールについてお話しいたします。</p> <p>まず、やはり校長先生たちがひと踏ん張りするところではないかと思います。例えば、コミュニティスクールについて地域の方たちや教職員、保護者に理解してもらうためにPTA 総会などでの具体的な説明が必要だと思います。これは、校長先生に頑張ってもらいたいと思います。</p> <p>次に校長先生に頑張ってもらいたいことは、やはり信頼関係を常日頃から築いておくことだと思います。コーディネーターさんは、学校に自由に出入りして職員室にも入ります。そういうとき、例えば職員室の机の上に、コーディネーターさんの子どもさんの通知表が目前にあるとやはり嫌だと思うので、そういった配慮もしていかなければならないです。ここは校長先生のリーダーシップで解決していくべきだと思います。</p> <p>それから、開かれた学校づくりという意識も必要だと思います。私も2年ほど経験しましたが、コーディネーターさんがとても良い方でした。また、子どもたちに頑張ってもらったことは、その地域へ通信をたくさん発行して知らせていただきました。パソコンができる方だったので、月に1回あるいは2回発行してもらったときもあります。色鮮やかに作成してもらって、学区の全世界帯に配布して地域の人たちにお知らせしておりました。</p> <p>やはり、宮古市の宝物である子どもたちをみんなで育てるという意識が大事だと思いますので、学校、地域、行政が協力し合う活動や教育の在り方を進めていただきたいと思います。以上です。</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (2)「学校・保護者・地域・行政が協力し合う教育の在り方について」	山本市長	はい。ありがとうございます。 それでは、教育長からお願いします。
	伊藤教育長	<p>はい。ただ今、各教育委員さんからお話があった内容について、やはりコーディネーターの方の位置づけは、大変戦力になりますし、逆にコーディネーターの方が学校内部の個人情報まで知ってしまうというマイナスなことも危惧されます。このようなことも含めて、私からは3点お話しいたします。</p> <p>まず、この制度そのものは令和4年度から実施されますので、現在教育委員会では、校長会議等で情報を校長先生に伝えながらご意見をいただいております。良い形で規則を作ろうとしておりますが、今まで以上に校長先生の経営ビジョンが試されると思います。私自身も宮古小学校と第一中学校の校長をしていましたが、校長先生方が、こうしたいという思いをまず先生方と情報共有していただいて、ご父兄の方々にもご協力いただくということです。校長先生の経営ビジョンとリーダーシップが今まで以上に明確になることが必要です。</p> <p>2つ目は、今まで以上に小中学校が横軸連携して、情報共有する必要があります。先ほど杉本委員がおっしゃったように、宮古一中学区を例に挙げても、やはり各小学校で様々な実態があります。その子どもたちが中学生になったときに、小中学校の連携を具体的にどうしたら良いかという話し合いをする機会が必要かと思えます。</p> <p>3点目はコーディネーターです。地域によっては、コーディネーターになれる方がいるかどうかということも非常に難しくなります。具体的には、現在、川井中学校の全校生徒が26名です。3年生は9人とも女性です。そして2年後になると、全校生徒は13名になります。中学校区で、川井小学校と川井中学校を例に挙げましたが、新里小学校と新里中学校も同様です。パイが小さくなってきたときに、地域コーディネーターとしてお願いしたいという方は本当に協力できる体制だろうか。そのようなマンパワーが大事な地域も実際にあります。ですから、中学校で広く、そして先ほど言ったように、地域を超えてお手伝いしたい方がいれば、それはそれで良いことだと思います。制度が出来て法的にも、令和4年度からスタートになるということであれば、一つの学校だけで苦しく考えないで、広域で、皆で考えましょう。第一中学校区には割とマンパワーがありますが、例えば崎山中学校区で人が足りないというときには、お互いに広域で連携しながら、プラスに働くように調整すれば良いと思います。田老地区もそうですし、大きな宮古市というくくりで人が相互にも交流できるような仕組みを考えていかないといけないと思います。あまり小学校、中学</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (2)「学校・保護者・地域・行政が協力し合う教育の在り方について」	伊藤教育長	<p>校に捉われない方が良いと思いますので、マンパワーが鍵になると思います。</p> <p>色々な方たちがいらっしゃると思うので、何かアイデアがあれば教育委員さんからもお話しいただいて、学校を超えて広く宮古市全体で考える方が良いと思います。川井中学校を例に挙げると、2年後には部活動が厳しくなって参ります。</p> <p>先ほど杉本委員さんがお話ししたとおり、単独でも部活動が出来なくなってしまうという状況です。先日行われた新人戦でも、11校の半数の学区が連合チームを作るという状況ですので、やはりコーディネーターの方々にもその趣旨をご理解いただき、広域でマンパワーを作っていくというようにぜひ連携していきたいと思っております。以上です。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。コミュニティスクールの話になりましたが、もう少しスリムにいかないかなと思います。制度が多すぎて、保護者にとっても、社会的に学校教育に関わる方にとっても、なかなか難しいと思います。また、校長先生が采配していくことが大変だと思います。もう少し、システムが簡単にならないのかと思います。</p> <p>つまり、基本は学校教育にあると思います。学校教育の中で、不十分な部分を保護者や我々が学校と一緒にカバーし合えば良いと思います。このままでは、子どもたちにとってもかなり大変だと思います。</p> <p>理想的な進め方は、対等に取り組んでいけば良いという話になりますが、実際に取り組んでみたときに、果たして本当にそうなるのかとってしまうことではあります。</p> <p>ですから、やはり学校教育を基本としながら、きっちりと子どもたちに教育ができる状況を周りが整えてあげる方が良いと思います。</p> <p>学校先生も異動がありますから、地域的な歴史や活動があるとかなり難しいと思います。そういった部分を地域の方々がカバーしてあげるというように、シンプルに制度を作ってあげれば良いと思います。無理矢理コーディネーターに押し付けながらの活動や、PTAだけが頑張るということもありますが、教育長がおっしゃったように、もっと活動の幅を広げた方が良いと思います。</p> <p>ですから、先ほどご説明したように、文部科学省が岩手県がということではないです。そういう方法は、私が一番嫌いなことなので、誰かが言ったからやらなければいけないということではなく、やはり子どもたちをどのように育てるのかに力点を置いて、上手く制度を使いながら、進めていきたいと思っております。</p> <p>何か意見等がありましたら、お願いいたします。</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (3)「宮古市教育振興基金の10年の振り返りについて」	山本市長	<p>【発言なし】</p> <p>やはり、シンプルにみんなが取り掛かれて、そして視野を広く持って活動していけば良いと思います。</p> <p>それでは、次の協議事項に移りたいと思います。</p> <p>協議事項 (3)「宮古市教育振興基金 10年の振り返りについて」事務局から説明をお願いします。</p>
	若江教委総務課長	<p>はい。教育委員会総務課長の若江と申します。それでは、座ってご説明させていただきます。</p> <p>協議事項 (3) 資料の1ページをご覧いただきたいと思います。これまでの取り組み状況です。基金の積み立てでございますが、宮古市教育振興基金は平成22年度に2億円を原資として積み立てまして、さらに平成28年度に1億円増額して積み立てしております。その他、寄附金2300万円と利子を合わせまして、3億2300万円ほどの積み立てを行っております。そして、教育振興基金を活用し、先進的事業として2億7300万円ほど、それから教育振興基金を活用した補助事業といたしまして、4100万円ほどの事業を実施しております。併せて執行見込総額といたしまして、3億1500万円ほどを見込んでおります。</p> <p>振興基金を活用した先進的事業ですけれども、これまでのところ、新教育プラン事業、子ども読書活動支援事業、学校支援推進事業、吹奏楽器等整備事業、それから特別支援教育事業、放課後学習支援事業という事業を展開してきたところです。</p> <p>続きまして2ページをお開き願います。ページの上段部分です。</p> <p>振興基金を活用した補助事業についてでございます。基金事業の申請件数は、この10年間、今年度分も合わせまして85件ほどございました。</p> <p>それからもう一つ、部活動の県大会、東北大会等、これに対しましても基金を活用いたしまして、件数は41件、全て合わせまして126件ほどの事業件数がございます。</p> <p>また、その下の(3)基金の活用割合でございます。円グラフですけれども、実施した割合が一番大きいのは、子ども読書活動支援事業で40.1%、1億2600万円ほどでございます。続きまして、学校支援推進事業で30.4%、9500万円ほどでございます。</p> <p>それでは、この10年間の成果の部分ですが、(1)です。基金創設時から10年間を1つの期間として進めてきた事業でございます。基金の設置目的につながる事業を実施できたということです。また、(2)です。各種大会の派遣補助につきまして、平成30年度までは基金で対応していましたが、今年度からは一般財源による補助事業に移行し、実施しております。それから(3)です。</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (3)「宮古市 教育振興基金 10年の振り返 りについて」	若江教委総 務課長	<p>各支援員の配置につきましては、教職員の負担軽減及び障がいのある子どもへの対応等、高い評価を受けております。最後に(4)ですが、新教育プランにつきましては、自然・科学に対する興味・関心を高めることに成果を上げているほか、部活動の充実と心身の健康の保持・増進を図ることが出来たところでございます。</p> <p>次に課題等ですが、教育立市の取り組み強化のためには、各支援員の体制が引き続き必要であります。また、(2)ですけれども、教育委員会でこれらの先進的事業については、継続したいと考えているところであります。それから(3)として、教育振興基金事業につきましては、関係団体に対して、10年間を一つのスパンとして説明してきたところでございます。以上です。よろしくお願いいたします。</p>
	山本市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、橋本委員さんからお願いいたします。</p>
	橋本委員	<p>宮古市教育振興基金事業については、制度そのものに関しても保護者に多くの理解を得られたものではないかと思えます。私の娘もこの時期に小学生あるいは中学生だったので助かったなという印象があります。</p> <p>新教育プランの中のニュートンスクールですけれども、毎回子どもたちにも好評ですし、家で遊ぶゲームとは違って、実際に目に見えないものが目に見える形となってくるので、その面白さを実感・体験出来たことはすごく良いことですし、これからも継続していただきたい部分です。科学に対する好奇心に大いに刺激を与えていると思えます。ニュートンスクールが入り口となって、科学に興味・関心を持ってほしいと思えます。</p> <p>放課後学習支援ですけれども、現在は10校を2名で行う体制ということですが、制度にも手応えがあるようですし、学習の習慣づけや自立保障のためにも、今後支援員を増員していただきたいと思えます。</p> <p>私の知っている子どもさんで、学校がつまらないという子どもさんがいました。なんでつまらないのかと聞くと、勉強が分からないからと言っていました。クラスや部活動が上手くいっていないわけではないのです。やはり子どもたちは、勉強を理解したいという気持ちがすごく強いのだと感じました。</p> <p>また、間接的ではあると思えますが、先生たちのサポートにもつながるのではないかと思えます。放課後学習支援がプラスに作用してくれば良いと思えます。</p> <p>円グラフを見ると、学校支援推進事業が30.4%、放課後学習支援事業が2.6%となっています。概要を見ると似たような内容が見られるので、一緒になって実施できれば、相乗効果も生まれると</p>

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (3)「宮古市 教育振興基金 10年の振り返り について」	橋本委員	<p>思います。</p> <p>それから、教育振興基金事業は、大いに継続していただきたいと 思います。以上です。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、杉本委員さんお願いします。</p>
	杉本委員	<p>はい。</p> <p>まずは10年の振り返りということで、本年度で終了と関係団体 等へはお話をしていることのことですが、個人的にはぜひとも継 続をお願いしたいと思っております。当然課題として検証する部 分は、少なからずあるかと思いますが、なくてはならない事業 もあると成果等にも記載されておりますので、引き続き実施して いただければと思います。</p> <p>また、成果等の(2)にもあるように、全国大会等に出場する際 の大会派遣補助については、今年度から一般財源で事業を創設し 対応しているとあります。ぜひとも手厚い支援をお願いしたいで す。子どもたちが頑張った成果に対しても、評価はしてあげてほ しいと思っております。全国大会の会場が沖縄という場合など、 生徒たちの負担が大きいにも関わらず、半分しか補助が出ないとい うことのないようお願いしたいと思います。可能であれば、 コーチ陣や応援団まで補助対象に加えていただきたいというのが 夢でございます。</p> <p>今後10年も継続していただき、またPTAに関しても、何か同じ ような補助等をしていただけるような整備を進めていただきたい と思っております。PTAの活動費も年々厳しい状況になってきていると 耳にしますので、そういった部分へも行政として補助をしていた だけけるような仕組みがあれば良いなと思っております。以上で す。</p>
	山本市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>次に、荒谷委員さんお願いします。</p>
荒谷委員	<p>はい。ちょっと混乱しているのですが、整理しながらお話しい たします。</p> <p>まず、宮古市教育振興基金事業は、私も継続を希望したいと思 います。どういった内容にするかということですが、いくつか考 えてきました。</p> <p>まずは、閉校した学校の校舎を活用した事業が何かできないの かということです。例えば、子どもたちを対象にした夏休み中の キャンプや、ボランティアの大学生を呼んでの交流などを考えて きました。</p> <p>次に、小学校での外国語活動です。やはり現場は大変必死にな っていると思っておりますので、英語をしっかりと教える人を増やすなど</p>	

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (3)「宮古市 教育振興基金 10年の振り返 りについて」	荒谷委員	<p>ということにも、この基金を充てられないのかなと思います。</p> <p>そして3つ目は、先ほど橋本委員さんのお話にもありましたが、命の教育です。東日本大震災から学んだ多くのことを、さらに学んでいくと。命の大切さや、たくさんの支援に対する感謝など、本当に色々なことを学んだので、東日本大震災に関する伝達活動や、平和教育の一環として修学旅行で広島に行くなど、そういうことにも活用できないのかなと思います。橋本委員さんは広島に行かれたときのお話でしたが、私は3年前に長崎に行きました。平和公園を歩き、資料館を見学しました。やはり現地に行かなければ学べないことがあります。メディアや報道を見ただけでは分からないものが現地にはあるので、そのような学習も子どもたちに経験させてあげたいと思っております。以上です。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは平井委員お願いします。</p>
	平井委員	<p>はい。私は、支援員さんは来年からも引き続き必要だと思います。支援員さんがいることで、授業が円滑に進められているという話も聞きました。</p> <p>現在、非常勤職員の講師の先生方が1年契約になっております。こちらを可能であれば、希望制というか、宮古出身の方が教員免許は取れていないけれども、講師として来ていただければいいなと思います。例えば、学校推薦をいただければ3年など、少しスパンが長くなり、宮古市でバックアップできれば、免許を取ってまた宮古に戻ってくるような制度をとっていければ、教員の確保にもつながるのではないかと思います。どうしても宮古出身の教員の方が少ないという話を聞いたので難しいかもしれませんが、1年契約だとようやく慣れてきたという方がいなくなるという状況は、現場も大変だと思います。以上です。</p>
	山本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは伊藤教育長お願いします。</p>
	伊藤教育長	<p>はい。宮古市教育振興基金については、山本市長さんの公約として、産業立市・教育立市の一環で立ち上げた基金であります。岩手県内14市でこのような取り扱いをしているところはございません。ですから、基金の取り扱い内容自体が、すでに宮古型のモデル事業だと思って大変嬉しく思っております。</p> <p>基本的には、私も継続する内容として考えております。やはり、この先5年、10年を見越したときに、子どもたちの体験学習の場を保障したいです。ニュートンスクール、イングリッシュ・キャンプもその通り成果が出ています。</p> <p>来年からは、プログラミング教育が始まりますので、それも含めて上手く活用できる体験学習の場を考えていきたいと思いま</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (3)「宮古市 教育振興基金 10年の振り返り について」	伊藤教育長	<p>す。</p> <p>次に、教員の研修です。教員の方々も、実は自分の学校のことだけで精一杯の方々がおりますので、できれば基金の財源を使っていたきたいです。学力向上ネットワーク会議では、毎年秋田県大仙市を視察で訪れています。今年、大仙市と友好都市協定を結びました。大仙市の教育長さんと市長さんも、今まで以上に教育、文化、科学、スポーツ分野を含めて交流したいとおっしゃっています。大仙市から、来年生徒と教員の方が来るそうですけれども、やはり基金事業として裏づけを持って、教員の研修も含めて相互交流したいです。併せて、姉妹都市を結んでいる黒石市、それからフェリー就航になりました室蘭市も一緒です。これにつきましても、やはり基本的には現地を訪れて、現地の産業や文化を見ることが大事です。昨年、私も中学生22名を連れて行って参りました。意見交流を行い、校長先生も何人か行きました。校長先生たちも、やはりこれは修学旅行で使えるなど感じておりました。また、今度白老町に、東日本で一番大きなアイヌ文化を象徴した国立の博物館が完成します。それもすごく大きなインパクトです。</p> <p>やはり、少なくとも大仙市あるいは黒石市、室蘭市を含めて、宮古市と関係があるところに教員を派遣して交流したいということです。</p> <p>最後に、宮古市PTA連合会の方々や各種委員さん、社会教育委員やスポーツ審議会委員の方、文化財保護審議会委員や図書館協議会委員など、教育委員会が所管している各種委員さん方もやはり、色々な形で宮古市を離れて、外から宮古市を見てもらうというような研修にも使えると思います。研修等で手薄だったのが、教員と各種委員さん方です。今日おいでの委員さん方も、ぜひ機会があれば、他の都市の色々な事業を見る機会になりますので、そういったところにも基金を十分に活用していきたいと思います。</p> <p>先ほど杉本委員さんからのお話にありました、団体に対する補助金も多いとのことですが、これもやはり教育的な価値があれば、みやっこタウンや杉本委員さんが担当している雪合戦協会など、子どもたちのために大きな意義があるということで、やはり継続的に進めていき、今まで以上に内容を精査していきたいと思います。継続することについては、宮古市にとってプラスになるということも含めてもう一度立ち返ってきたいと思います。</p> <p>ここで10年を振り返りましたので、このあとの総合計画も含めて、5年後の前期あるいはその次の5年も、これまでの10年間で活かされるように、この基金の在り方について宮古型のモデル事</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (3)「宮古市 教育振興基金 10年の振り返り について」	伊藤教育長	業として実施していくことが一番大きいと思っております。以上です。
	山本市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>私は、宮古市教育振興基金をやめると言った覚えはないので、終わるといような情報はどこから来たのか分かりません。10年経ったので終わるといことは、少し誤解があります。</p> <p>ただ、10年経った時には、必ず評価をして、この10年間でどのようなことが行われてきて、効果があるものなのかといことはしっかり確認して、次のステップに進むといことです。</p> <p>産業振興基金は5年で組んでありますが、教育振興基金は10年間という長い期間で2億円を積み立てています。</p> <p>その中で、最初に行ったのが新教育プランです。それから、教育委員会で、やはり自分たちが大事だと思ふこと、子どもたちの教育や生涯学習でも、これは重要だと思ふものがあれば、教育委員会でお金を使うことができる仕組みを作りました。</p> <p>私が教育委員の時は、そういうお金がなかったので、ずっと市長部局にお願いをしていました。</p> <p>やはり、自分たちできっちりとやりたいことができるような形を基金として作りました。</p> <p>色々な事業をしていただきました。円グラフの割合を見ますと、これには人件費が入っています。人件費を除けば、ほぼ新教育プランや特別支援教育事業、放課後学習支援事業それぞれが同じくらいの割合になると思ふます。</p> <p>ただ、校長先生方からも聞きたいのですが、やはり学校支援員の方による支援が有効でしょうか。これは、教育振興基金として10年間経過したので、同じ基金の中に組み込むか、あるいは別枠の予算として取り組むのか、これから決めていかなければならないのですが、やはり学校の先生が多忙すぎて大変だといことで、支援員を配置することにしました。その結果、子どもたちも安心して勉強ができる環境が出来たと思っております。</p> <p>また、子ども読書活動支援事業もその通りです。図書館利用の仕方などを始め、様々なところに支援員を配置して、たくさん子どもたちに本を読んでほしいとい願ひでした。</p> <p>そして最後に、特別支援教育はその通りですが、放課後学習支援事業です。ご存知かと思ひますが、通常授業45分の中で、どうしても時間が足りないために、しっかりと覚えられていない子どもたちもいるわけです。様々な子どもたちがいるので、分からないまま、知らないままに育ってしまって、高校を卒業してしまうと大変なことになってしまうので、やはりゆっくり時間をかけてあげて、基礎的なものをしっかりと覚えさせてあげて中学校に送</p>

次 第	発言者	内 容
<p>4 協議事項 (3)「宮古市 教育振興基金 10年の振り返り について」</p>	<p>山本市長</p>	<p>り出すことが大事です。そして高校に進むという形を取りたかったので、放課後学習支援事業を当時の教育長にお願いしたところ であります。</p> <p>そうすると、やはり勉強が分かれば面白くなります。</p> <p>私が教育委員の時に、ある小学校に行くと校長先生から、学力 テストの結果が悪かったと聞きました。そして6年生の子にどう して出来なかったのかと聞いたところ、九九の掛け算を全部覚えて いなかったのです。それから、あいうえおの順番も分からない 状況でした。なので、辞書も引けないのです。</p> <p>ですから、その学校の校長先生は、毎日放課後に3人くらい の子どもたちを呼んで、あいうえおの順番や九九の掛け算、辞書の 引き方を教えていました。すると勉強が楽しくなって、毎日校長 室に来たそうです。その子どもたちは勉強が楽しいと言っていた そうです。</p> <p>そういう状況を見て、やはり勉強は時間をかけてあげないと覚 えられない子どもたちもいます。ですから、現在、支援員は2人 のみの配置ですが、もう少し拡大して勉強に時間をかけられる子 どもたちを増やしたいと思います。</p> <p>なので、特に読み聞かせなどは、子どもたちに学ぶことの楽し さや本を読むことの楽しさを教える良い例だと思えます。</p> <p>そのようなこともありますので、教育委員の皆さんでしっかり と決めていただきたいと思います。</p> <p>いずれにせよ、宮古で育って宮古で勉強をして、勉強が好きに なったり本が好きになったり、すごく良い思いをしたという気持 ちを持って、育ってほしいと思いますので、教育振興基金は、ま た今後しっかりとした積み立てをしたいと思えます。</p> <p>何か、ご意見等ございますか。</p> <p>【発言なし】</p> <p>色々な課題があると思えますが、それらをぶつけ合って、子ど もたちをしっかりと育ててあげたいという気持ちと、我々も、生 涯ずっと楽しいような勉強の仕方をしていきたいと思えます。</p> <p>そのための教育委員会でもあります。あまり、きまりに縛られ ることなく、シンプルに考えてシンプルに行動していきたいと思 っておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>本日の協議事項の他に、何か発言をしたい方はいらっしゃいま すか。</p>
<p>5 その他</p>	<p>橋本委員</p>	<p>はい。教育委員会定例会でもお話したのですが、東日本大震災 以降に建てられた仮設住宅が公園から撤去され、元の公園に戻り つつあります。しかし、場所によっては、誰が使うのかという場 所に新品の遊具が設置されている公園が、バイパス沿いだけでも</p>

次 第	発 言 者	内 容
5 その他	橋本委員	<p>3ヵ所ございました。私が最初に通りかかったときは、雑草がすぐ生えていたのに、次に通りかかったときにはすぐきれいになっていました。</p> <p>もちろん、予算を使って設置されていると思いますが、もう少し他のことに活用できないかと思っております。以上です。</p>
	山本市長	<p>今のことに関しては、確かにその通りであります。</p> <p>これも決まりがありまして、災害復旧だから元の場所に戻さないというわけです。もちろん私が気が付いたところは、あの公園は誰が使うのか、現地に行って人の動きがあるかどうか確認してから遊具を設置しなさい。と指示を出してあります。</p> <p>ですが、遊具が設置されたところをもう一度確認します。もう子どもたちが遊ぶ場所がないので、すぐ設置してほしいという要望や、応急仮設住宅がなくなったのですぐにも設置してほしいという要望もあって、すぐに設置させたところもあります。やはり、子どもたちが本当に使うところから優先的に進めるようにという部分がまだ足りないようですので、そのようにしたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>はい。続いて平井委員さん。</p>
	平井委員	<p>現行の制度が少し厳しいのかと思いますが、インフルエンザの予防接種です。私たちの時代は学校で受けました。現在は、インフルエンザの予防接種を受けたら、自分の子どもが熱を出した。どうしてくれるのかという方もいると聞いたので、難しいのは分かるのですが、毎年定期的に学級閉鎖や学年閉鎖が行われているので、どうにかならないのかと思います。意識の高い家庭のみが受けて、そうではない家庭は受けないという状況が毎年なので、インフルエンザの予防接種を受けていても、受けていない子どもがいれば感染します。</p> <p>学校の先生方を煩わすという意味ではなく、学校を会場にして医療機関に委託して実施できないのかなと思います。</p>
	伊藤教育長	<p>毎年、私も受けております。昨年あるクリニックに行きましたら、割り当てられていたワクチンがもうないと言われました。10月あたりでなくなったという状況でした。</p> <p>平井委員がおっしゃる通り、学校ごとに差がなく、特に反応が過激な子どもさん以外は、学校で受けさせても良いと思います。可能な範囲で学校も協力してくれると思います。ただ、親御さんたちにも様々な考え方があります。子どもたちと親御さんにインフルエンザの予防接種の趣旨をしっかりと説明して理解していただいて、宮古市で健康教育の一環としてやりましょうということであれば、良いと思います。</p>

次 第	発 言 者	内 容
5 その他	伊藤教育長	<p>子どもたちと親御さんたちのご理解と、継続的に受けること、ワクチンの出荷量に伴って安定的に供給できることが保障されるのであれば、とても良いことだと思います。</p> <p>これも政策的なことでも市長さんの判断も必要だと思いますけれども、学校の協力体制については何も問題ないと思います。</p> <p>周知の方法と親御さんたちからのご理解をしっかりとって、例えば、PTA 会長さんたちから連名でやるべきだという要望があれば、関係課にお願いすることもあると思います。要望があつて必要であれば、学校を会場にということに支障はないと思います。皆さんからの意見をいただいて考えたいと思います。以上です。</p>
	山本市長	<p>予防接種は、なかなか難しいものがあります。ただ、それで手をこまねているのではなくて、やはり学校でも家庭でも外出や不特定多数の人と接触した後は、手洗い、うがいを徹底させるべきです。それでもインフルエンザには感染するかもしれませんが、やらないよりは絶対良いです。</p> <p>なかなか、子どもたち全員が受けるとなるのは難しいと思います。</p> <p>はい。それでは事務局にお返しいたします。</p>
6 閉会	伊藤教育部 長	<p>以上をもちまして、令和元年度第1回総合教育委員会を閉じさせていただきます。長時間にわたり、大変お疲れ様でございました。</p>